

部門では診療実績の伸びに比例しアイソトープの使用量も年々増加しており、特にラベリング時の被曝に注意が必要である。治療部門ではラルス導入に基づくと考えられる被曝線量の増加もあり、Co の漏洩線量も無視できないものと考えます。又、今後中性子線による被曝にも対処していく必要がある。ポータブルにおいても件数は増加の一途をたどり、しかもコードの長さや患者観察の必要性和種々の制約から十分な距離や防護ができないのが現状である。撮影部門では血管造影部門が DSA の導入等、透視しながらの体位設定やフィルタリングなど内容が高度になりつつあり心配されるセクションである。

最後に、3 部局ともに被曝線量は微々たるものであり年間 5 レムの範囲内に全員が入ってはいますが、最近、許容線量の見直しも行なわれ、又、閾値がないと言われる確率的影響の見地からも被曝は極力低いことが望ましい。被曝防護の三原則を守り、より一層の被曝軽減に務める必要がある。

15) CT で病変の改善を追跡しえた急性膀胱炎の 2 例

前田 春男・黒川 茂樹 (新潟市民病院)
横山 道夫 (放射線科)
山本 睦生・藍沢 修 (同 第一外科)
森山 弘之 (同 内科)

1 例目は、48 才男で、2 ヶ月前に、胃癌で、胃と脾の全摘を受けているが、上腹部激痛を訴えて来院、血清アミラーゼ 1,750u/dl, 尿アミラーゼ 53,250u/dl, 白血球数 18,300 を示した。発症 2 日後の CT では、胸水、腹水貯留、膀胱大、膀胱内部不均一で、出血によると思われる高吸収域も認めた。アミラーゼ値は、10 日位で、ほぼ正常化した。2 週後の CT で、膀胱内に Gas 像 (膿瘍形成)、膀胱周囲に浸出液貯留を認めた。1 ヶ月後の CT では、膀胱は、ほぼ正常化していた。2 例目は、48 才女で、上腹部～左季助部痛を訴えて来院、血清アミラーゼ 500u/dl, 尿アミラーゼ 27,100u/dl, 白血球数 28,600 を示した。1 週後にアミラーゼ値は正常化した。9 日後の CT で、膀胱全体に著明な腫大と胆のう結石を認めた。さらに 2 週後の CT では、膀胱腫大は、著明に軽減していた。

16) 副腎骨髄脂肪腫の画像診断

中島美貴子・藤川 隆夫
岡田 稔・似鳥 俊明 (杏林大学)
宮坂 康夫・是永 建雄 (放射線科)
蜂屋 順一・古屋 儀郎

副腎骨髄脂肪腫は極めて稀な非機能性良性腫瘍で、最近 2 症例を経験したのでその画像診断について報告する。

症例 1. 47 才女性。右側腹部痛にて CT 施行されたところ右腎上方に約 7cm の境界明瞭な脂肪及び水の吸収度を示す腫瘍を認めた。腫瘍内に石灰化はなく造影剤による増強効果もなかった。症例 2. 42 才男性。腹部単純写真にて左上腹部に石灰化陰影及び左腎下方偏位を指摘され CT 施行された。左腎上方に石灰化を伴う薄い被膜で被われた脂肪性腫瘍を認め、腎を前方へ圧排していた。副腎骨髄脂肪腫は近年 CT, US の普及に伴ない報告例が増えており、CT 所見について記載のあるものは 31 例である。そのうち 90.3% に脂肪成分が認められた。CT で腎上方に脂肪の density を有し内部が不均一で辺縁平滑な造影増強効果のない腫瘍を認めたときには、副腎骨髄脂肪腫が最も疑われる。

17) 画像診断上肝に病変をみたサルコイドーシスの 1 例

樋口 正一・中村 忠夫 (小千谷総合病院)
登木口 進 (同 神経内科)

最近経験した肝サルコイドーシスの 1 例について、その画像上の特徴を検討した。肝シンチでは、肝は腫大し、multiple の defect が両葉にみられた。CT 上では、肝全体に索状・樹枝状の低吸収域が広がり、US でも肝内 echo は不整であった。腹腔鏡下肝生検にて、病理組織学的にサルコイド結節が証明されサルコイドーシスによる肝病変であることが確認された。

検索し得た範囲では画像上サルコイドーシスの肝病変について言及した文献はみあたらず本例は稀なものと思われる。

18) 腹部異物性肉芽腫の画像診断

伊藤 猛・捧 彰 (新潟大学)
酒井 達也・椎名 真 (放射線科)

外科的手術によるガーゼなどの遺残異物より発生した肉芽腫 5 例の画像診断を CT を中心に分析した。前回手術より発見までの期間は平均 9.2 ヶ月で、自覚症状は不定であり偶然に発見された症例も存在した。画像上、腫瘍の多くは膨脹性に発育する嚢胞状を呈し、大きさは発見までの期間とは相関しなかった。特徴的所見として内部には取込まれた空気が CT 上嚢胞内部の細かいガス像として認められる例が存在し、特に経過の短いものに多く認められた。また他の画像診断上の特徴的な所見として、異物の存在が CT 上高吸収値の部分、あるいは超音波で高輝度の部分として認められる場合がありこのような時には診断は比較的容易である。しかしこのような